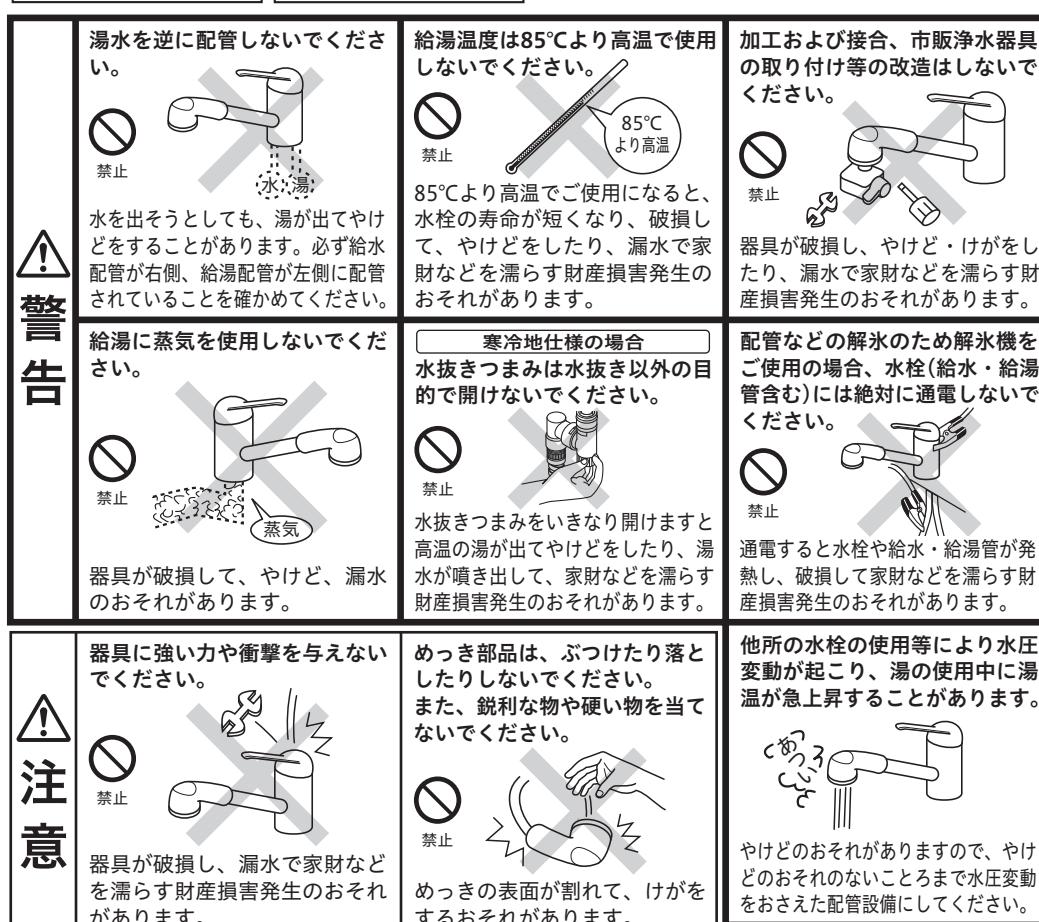


施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した 警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

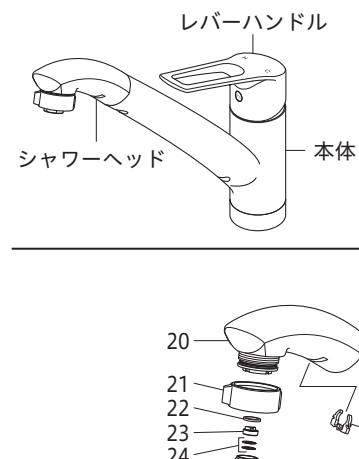
この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です



1 ページ

取り付け完成図と各部の名称／分解図

取り付け完成図と各部の名称

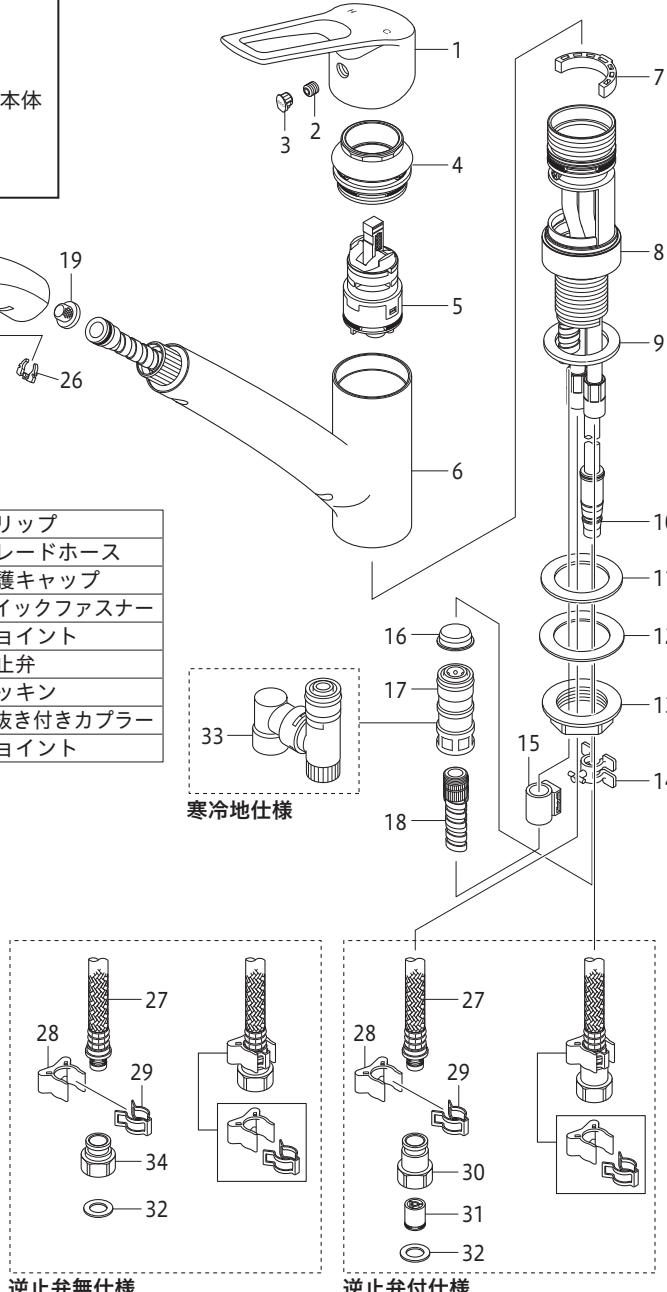


分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

1	レバーハンドル
2	六角穴付き止めねじ
3	キャップ
4	固定ナット
5	カートリッジ
6	吐水口
7	回転規制ストッパー
8	本体
9	シートパッキン
10	プラグ
11	パッキン
12	スリップ板
13	座付きナット
14	ホースガイドA
15	ホースガイドB
16	キャップ
17	カプラー
18	シャワーホース
19	ストレーナ
20	シャワーヘッド
21	シャワーフェイス
22	パッキン
23	整流器
24	ストレーナ
25	吐水口金具

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



3 ページ

配管接続部をテーパねじに接続しないでください。



テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

めっきの表面が割れた場合は使用しないでください。



けがをするおそれがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。



点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

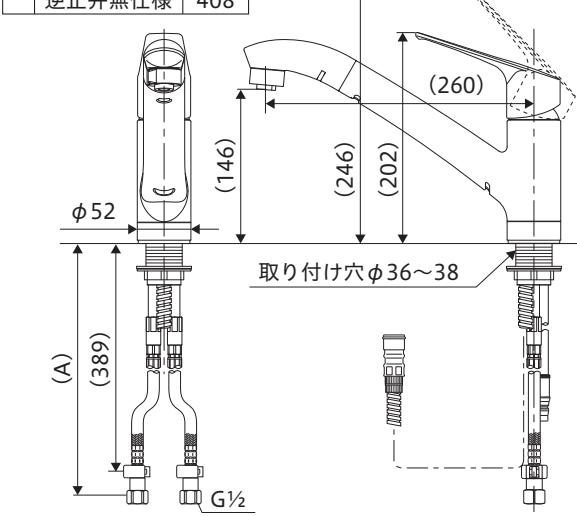
小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。



高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

寸法図

A	逆止弁付仕様	420
	逆止弁無仕様	408



取り付け前に

① 使用水圧 (A = (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))

(1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+0.10MPa (動水圧) 、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

(2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+80.0KPa (動水圧) 、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。

③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。

④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。

⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。

⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60°C以下の設定をおすすめします。

⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。

⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。

⑨ 本製品は改造(加工および接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。

⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

2 ページ

取り付け手順 1

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は200mm程度で取り付けます。

止水栓はストレーナ付が最適です。

寒冷地用は水抜き栓付き止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓

水抜き栓付止水栓



3 本体の取り付け位置について

取り付け位置によっては吐水口先端がシンクから飛び出す場合があります。(施工例1)

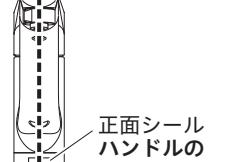
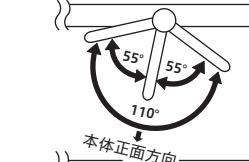
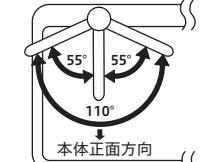
正面位置をシンク内側へずらして調整することは可能ですが、(施工例2)

その際、ハンドルの左右中央位置もずれますのでご注意ください。

(ハンドルの左右中央位置は正面シールの位置となります)

位置調整は、銅パイプまたはブレードホースが施工できる範囲内で行ってください。

施工例1(飛び出した例) 施工例2(正面の角度を内側へずらした例)



本体の固定

① 取り付け穴周囲の汚れを取り除いたあと、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがし正面シールが正面にくるように本体を差し込みます。

② 下図の順にパッキン類を差し込み座付きナットで締めつけ本体を完全に固定します。

【△注意】

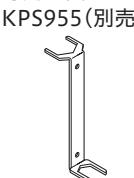
・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

・専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。シャワーヘッドや吐水口やレバーハンドルを持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますのでこれらは持たないでください。

【△注意】

座付きナットの締め付けは、専用工具KPS955(別売)で確実に行ってください。

しっかりと締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具
KPS955(別売)

4 ページ

取り付け手順 2

4 止水栓との接続（逆止弁付仕様・逆止弁無仕様共、接続方法は同じです。）

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。

締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。

・薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。

パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

・止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。

固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】

・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。（A図）

急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

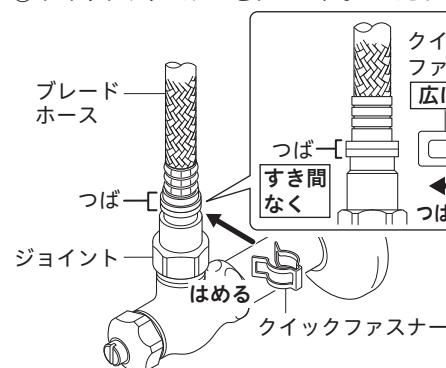
・上下戻り配管はやめてください。（B図）

ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。

・ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩耗による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

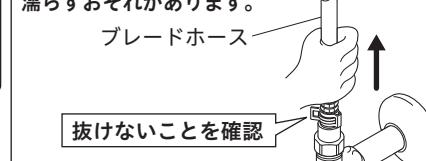
【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーをブレードホースとジョイントのつばにはめます。



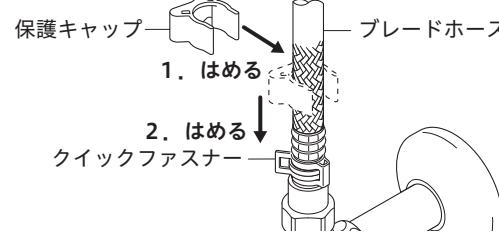
【△注意】

ブレードホースを上に引っ張って、抜けないことを確認してください。しっかりとまつないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。



④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。

この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。

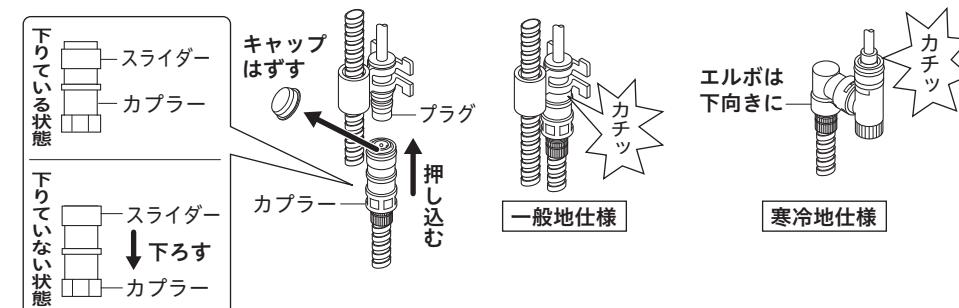


5 ページ

取り付け手順 3

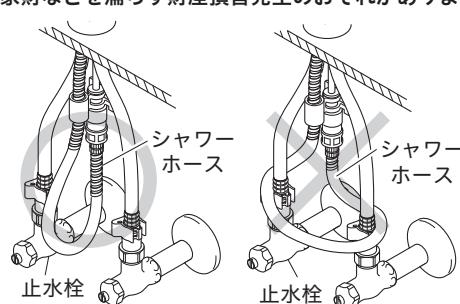
5² ④ カブラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグへカチッ音がするまで押しこみます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。）

取り付け後、カブラーを引っ張ってはずれないことを確認します。



【△注意】

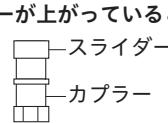
シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げる取り付けください。シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



【△注意】

カブラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

・スライダーが上がっていること



・カブラーを真下に引っ張ってはずれないこと



取り付け後の点検と清掃 1

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れないことを確認してください。

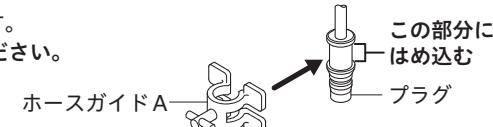
確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

7 ページ

5¹ シャワーホースの接続

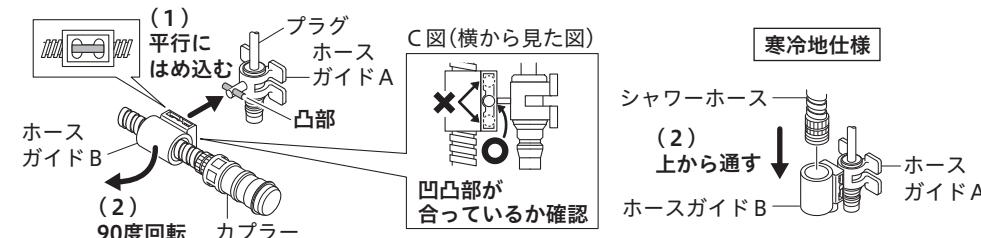
① 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。

【お願い】ホースガイドは壁面に固定しないでください。



② (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。（ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様は同梱しています。）

(2) (一般地仕様の場合) カブラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。（寒冷地仕様の場合）ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースを上から通します。



【△注意】

固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。

B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。

シャワーホースが破損し漏水により家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

【お願い】ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。されている場合は合わせてください。（C図）

③ (一般地仕様の場合) カブラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合はカブラー手締め後、約30度増し締めしてください。（締め付けトルクの目安は約100N・cm）

(寒冷地仕様の場合) 水抜き付きカブラーとシャワーホースを接続します。

水抜き付きカブラー手締め後、約30度増し締めしてください。（締め付けトルクの目安は約100N・cm）

【△注意】カブラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。

漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

※カブラーの締め付け不足や締め付け過ぎ

※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない

※シャワーホースはねじらない



6 ページ

取り付け後の点検と清掃 2

ストレーナ・シャワーフェイス・整流器清掃のお願い

シャワーヘッドのストレーナ・シャワーフェイス・整流器にゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

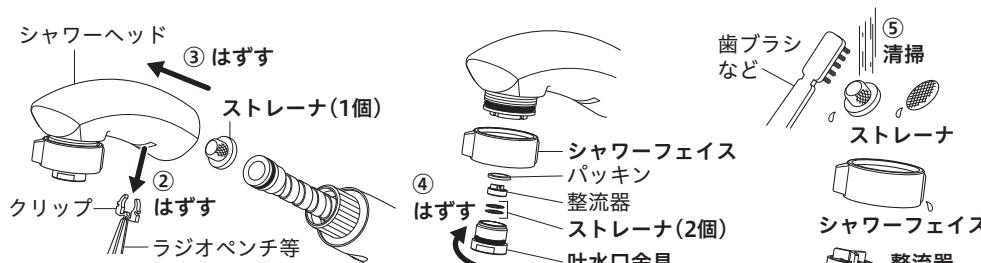
① 湯水全開で20~30秒吐水させます。

② シャワーヘッドを引き出し、ラジオペンチ等でクリップをはずします。

③ シャワーヘッドをはずし、ストレーナ(1個)を取りはずします。

④ 吐水口金具を工具ではずし、シャワーフェイス・整流器・ストレーナ(2個)を取りはずします。

⑤ ストレーナ・シャワーフェイス・整流器をブラシで水洗いします。



〈シャワーフェイス清掃後の組み立て〉

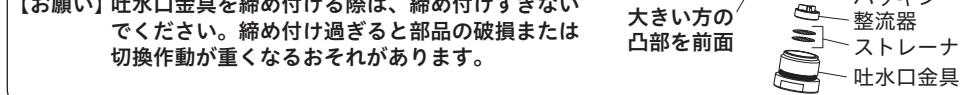
はずした逆の手順で組み立ててください。

その際、シャワーヘッドのパッキンにゴミの付着がないか確認してください。

シャワーフェイスを取り付ける際は、シャワーフェイスの大きい方の凸部を前面にして取り付けてください。

吐水口金具は手締め後、工具で約1/3回転(約120度)増し締めしてください。（締め付けトルクの目安は約75N・cm）

【お願い】吐水口金具を締め付ける際は、締め付けすぎないでください。締め付け過ぎると部品の破損または切換作動が重くなるおそれがあります。



止水栓による流量の調節方法

レバーハンドルのクリック手前で適量(湯側・水側それぞれ5L/min程度)になるように止水弁で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

【△注意】・修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。

シャワーヘッドや吐水口やレバーハンドルを持ってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

8 ページ

404601-01